

JPMグローバル高利回りCBファンド (為替ヘッジなし、限定追加型)

2023-11

第 2 期 運用報告書(全体版)

(決算日: 2025年11月6日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「JPMグローバル高利回りCBファンド(為替ヘッジなし、限定追加型)2023-11」は、去る11月6日に第2期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じ、先進国の転換社債(CB)を主要投資対象として運用を行い、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的とします。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当該投資信託の概要と仕組み

商品分類	追加型投信／内外／その他資産(転換社債)	
信託期間	2023年11月7日から2028年11月6日(休業日の場合は翌営業日)までです。	
運用方針	マザーファンドへの投資を通じ、先進国の転換社債(CB)を主要投資対象とし、安定的な収益の確保およびこの信託にかかる信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。 信託財産が実質的に保有する外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。	
主要投資 (運用)対象	当ファンド	GIMグローバル高利回りCBマザーファンド2023-11(適格機関投資家専用)の受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	先進国のCBを主要投資対象とします。
組入制限および 運用方法	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて運用を行います。 株式への実質投資割合は、純資産総額の30%以下とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
	マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> CBへの投資にあたっては、投資地域の分散をはかりながら、価格水準、株価との連動性等の投資効率、発行企業自体の成長性および安定性等を勘案しつつ、特に信用リスクと比較して相対的に最終利回り※が高いと判断される銘柄を中心に投資します。 ※「最終利回り」とは、あるCBを購入し、株式に転換せずに償還期日まで保有した場合の利回りのことです。 原則として当ファンドの信託期間内に償還日を迎える転換社債に投資し、償還日まで保有することを基本とします。ただし、上記の銘柄選択の方針に照らし、CBの償還日まで保有を継続しない場合があります。その場合、プットオプション付CBについては、オプションの権利行使日をCBの償還日とみなすことがあります。「プットオプション付CB」とは、通常の償還日より前にCBの保有者が償還を請求できる権利(プットオプション)が付与されているものをいいます。 CBの償還金等は、原則として当ファンドの信託期間内に償還日を迎えるCBに投資します。なお、CBの市場動向等によっては、先進国の国債に投資を行う場合があります。先進国の国債へ投資を行う場合、流動性や安定性等を勘案し投資します。 当ファンドの信託期間の終了に近づいた時期においては、現金の保有および短期金融商品への投資の比率が高まる場合があります。 外貨建資産については、円貨に対する為替ヘッジを行いません。 株式への投資割合は、純資産総額の30%以下とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	年1回の決算時(11月6日(休業日の場合は翌営業日))に、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

(注) 当報告書における比率は、表示桁未満四捨五入です。

(注) 「GIMグローバル高利回りCBマザーファンド2023-11(適格機関投資家専用)」は「グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11」または「マザーファンド」ということがあります。

くお問い合わせ先>

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

ホームページアドレス am.jpmorgan.com/jp

TEL 03-6736-2350 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

〒100-6432 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価	額					新株予約権付社債 (転 換 社 債) 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金	期 謄	中 落		
(設定日) 2023年11月7日	円 10,000			円		%	%	百万円 9,519
1期(2024年11月6日)		11,038		0		10.4	94.5	14,599
2期(2025年11月6日)		12,082		0		9.5	93.2	10,107

(注) 設定日の欄には、設定時の数値を記載しております。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、各比率は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドの投資対象市場の値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマーク・参考ベンチマークは記載しておりません(以下同じ)。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価	額		新 株 予 約 権 付 社 債 (転 換 社 債) 組 入 比 率
		騰	落	
(期 首) 2024年11月6日	円 11,038		%	%
11月末	10,810		△2.1	94.5
12月末	11,267		2.1	95.1
2025年1月末	11,052		0.1	94.7
2月末	10,833		△1.9	93.0
3月末	11,099		0.6	95.9
4月末	10,909		△1.2	98.3
5月末	11,091		0.5	96.1
6月末	11,330		2.6	90.0
7月末	11,574		4.9	97.0
8月末	11,558		4.7	98.8
9月末	11,765		6.6	97.4
10月末	12,124		9.8	93.7
(期 末) 2025年11月6日	12,082		9.5	93.2

(注) 謄落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、各比率は実質比率を記載しております。

投資環境

◎CB市況

世界のCB市場動向を表わすFTSEグローバルCBインデックス(米ドルベース)は、上昇しました。各国・地域のCBインデックスでは、米国(米ドルベース)、アジア(除く日本、米ドルベース)、欧州(ユーロベース)、日本(円ベース)のすべての国・地域でプラスとなりました。

◆期初から3月にかけては、米新政権への期待と世界的な貿易摩擦への懸念が入り混じる環境が続き、世界のCB市場は概ね横ばいで推移しました。

◆4月上旬には、米国の政策に関する不透明感や各国の報復関税の動きがセンチメント(投資家心理)の悪化に繋がり、経済成長に対する懸念も広がる中、下落しました。

◆4月中旬以降は、トランプ政権の一部の国・地域との貿易協定の合意のほか追加関税の一部停止などを受けて、貿易摩擦が緩和するとの楽観的な見方が広がり、上昇基調で推移しました。その後も、AI(人工知能)への更なる期待の高まりや米国企業の好調な決算を背景に、期末にかけて堅調に推移しました。

※FTSEグローバルCBインデックスは、Refinitiv(リフィニティブ)が発表しており、著作権はリフィニティブに帰属しております。

◎為替市況

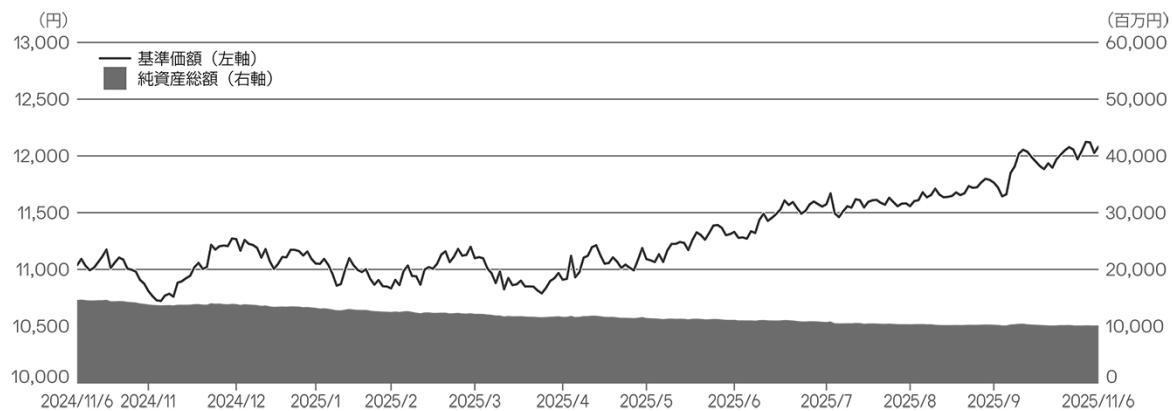
為替市場では、殆どの投資通貨が対円で上昇し、特にユーロが大きく上昇しました。

運用経過の説明

◎基準価額の推移

○当ファンド: 基準価額の騰落率は+9.5%となりました。

○組入ファンド: マザーファンドの基準価額の騰落率は+10.5%となりました。



(注) 基準価額は、信託報酬控除後です(以下同じ)。

◎基準価額の主な変動要因

マザーファンドの受益証券を高位に組み入れた結果、保有証券の売却益や投資通貨が対円で上昇したことなどが基準価額を押し上げました。

◎ポートフォリオについて

○当ファンド

マザーファンドの受益証券を高位に組み入れました。

○マザーファンド

地域別では、欧州や北米の保有比率を高めとしました。また、セクター別では、金融、コミュニケーション、消費財(生活必需品)セクターの保有比率を高めとしました。

◎分配金

基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案し、無分配としました。留保益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込)

項目	第2期
	2024年11月7日～ 2025年11月6日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,085

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 円未満は切捨てです。当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

◎今後の見通し

◆2025年の株式市場は波乱含みながらも投資家にとってはポジティブな展開を見せており、地政学リスクの後退や米中貿易交渉の進展による貿易摩擦の緩和、堅調な企業利益、及びAI(人工知能)投資ブームなどが市場を押し上げています。このような環境下、企業利益に対しては楽観的な見方を維持していますが、バリュエーション(価格評価)には十分留意する必要があると考えます。2026年もグローバルの利益成長は堅調で、主要産業グループ全体で11.7%の利益成長を予想しています。特にS&P500の「マグニフィセント7」以外の企業は、3年ぶりに11.2%の利益成長が見込まれます。一方、マグニフィセント7の成長も健全で、直近の利益予想の上方修正の主因となっています。欧州はやや軟調なもの、2026年の見通しは改善しています。投資家にとっての課題は、このポジティブな見通しが既に広く織り込まれていることです。グローバル株式市場は4月の安値から約35%上昇し、AI関連銘柄への熱狂が一段と高まっています。未知の要素は多いものの、新しい技術がもたらすポテンシャルは非常に大きく、投資の勢いは加速し続けています。市場はこのような環境にあるものの、米国の税制と関税政策の将来の軌道と、それらがインフレと経済成長に与える影響が依然として不確実であるため、潜在的なボラティリティ(変動性)を抑制するためにはポートフォリオの分散が重要だと考えます。

◆CBは様々な理由から投資妙味が高い資産と考えます。第一に、金利水準、地政学的な緊張、インフレの高まりによる市場の変動性の高まりなどを背景とした資産クラスの割安感から、新規投資の好機となっています。第二に、CBは債券の特性により下落率が抑制される傾向にあることに加え、一般的な債券よりもスプレッドが大きく、デュレーションも短くなっています。また、CBにはオプション(株式に転換しうる権利)が組み入れられているため、デュレーション・リスクが大幅に低減されます。金利が上昇すると、債券部分は低下しますが、オプション部分の評価が上昇します。

◎今後の運用方針

○当ファンド

マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。

○マザーファンド

先進国のCBを主要投資対象とし、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2024年11月7日～2025年11月6日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 109	% 0.968	(a)信託報酬=〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率
(投信会社)	(68)	(0.605)	投信会社 投資判断、受託会社に対する指図等の運用業務、目論見書、運用報告書等の開示資料作成業務、基準価額の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価
(販売会社)	(37)	(0.330)	販売会社 受益者の口座管理業務、換金代金等の支払い業務、交付運用報告書の交付業務、購入後の投資環境等の情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価
(受託会社)	(4)	(0.033)	受託会社 信託財産の記帳・保管・管理業務、委託会社からの指図の執行業務、信託財産の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価
(b) その他の費用	4	0.038	(b)その他費用=〔期中のその他費用〕 〔期中の平均受益権口数〕
(保管費用)	(2)	(0.016)	保管費用 外貨建資産の保管業務の対価として受託会社の委託先である保管銀行等に支払われる費用
(監査費用)	(2)	(0.021)	監査費用 信託財産の財務諸表の監査業務の対価として監査法人に支払われる費用
(その他の)	(0)	(0.001)	その他 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	113	1.006	
期中の平均基準価額は、11,284円です。			

(注) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

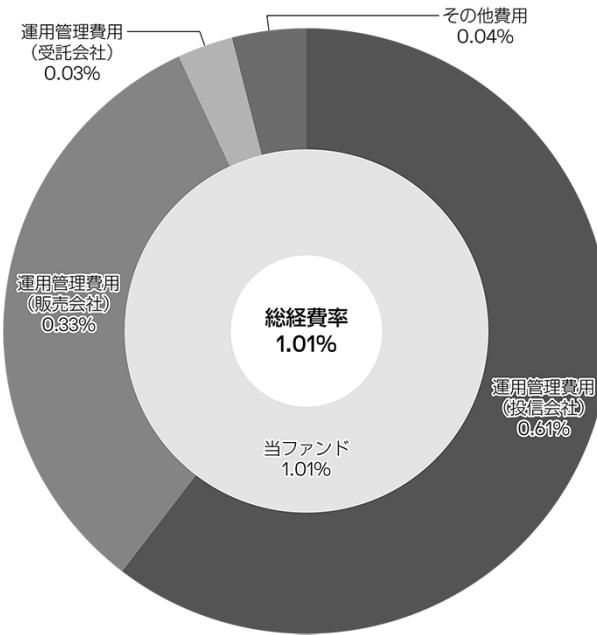
(注) 各項目の円未満は四捨五入です。

(注) 比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.01%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定期		解約	
	口数	金額	口数	金額
千円	千円	千円	千円	千円
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券	一	一	4,920,437	5,570,334

(注) 単位未満は切捨てです。

○利害関係人との取引状況等

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年11月6日現在)

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)		当期末	
	口数	千円	口数	千円
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券	13,169,731	13,169,731	8,249,293	10,160,655

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てです。

(注) 株式、新株予約権証券及び株式の性質を有するオプション証券等は組入れていません。

○投資信託財産の構成

(2025年11月6日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券	千円 10,160,655	% 100.0
コール・ローン等、その他	1,231	0.0
投資信託財産総額	10,161,886	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。なお、「コール・ローン等、その他」については投資信託財産総額から他の資産を差し引いた額を記載しています。

(注) グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11において、当期末における外貨建純資産(14,483,900千円)の投資信託財産総額(14,630,272千円)に対する比率は99.0%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので。なお、当期末における邦貨換算レートは1米ドル=154.04円、1ユーロ=177.13円、1英ポンド=201.15円、1スイスフラン=190.31円、1オーストラリアドル=100.17円、1香港ドル=19.81円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年11月6日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円 10,161,886,338
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券(評価額)	10,160,655,338
未収入金	1,231,000
(B) 負債	54,451,651
未払解約金	1,231,000
未払信託報酬	52,158,283
その他未払費用	1,062,368
(C) 純資産総額(A-B)	10,107,434,687
元本	8,365,765,801
次期繰越損益金	1,741,668,886
(D) 受益権総口数	8,365,765,801口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,082円

<注記事項>

期首元本額	13,226,431,887円
期中追加設定元本額	0円
期中一部解約元本額	4,860,666,086円

当期末における未払信託報酬(消費税相当額を含む)の内訳は以下の通りです。

未払受託者報酬	1,778,127円
未払委託者報酬	50,380,156円

○損益の状況 (2024年11月7日～2025年11月6日)

項目	当期
(A) 有価証券売買損益	円 973,490,941
売買益	1,091,497,558
売買損	△ 118,006,617
(B) 信託報酬等	△ 117,680,475
(C) 当期損益金(A+B)	855,810,466
(D) 前期繰越損益金	887,681,142
(E) 追加信託差損益金	△ 1,822,722
(配当等相当額)	(1,198,316)
(売買損益相当額)	(△ 3,021,038)
(F) 計(C+D+E)	1,741,668,886
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	1,741,668,886
追加信託差損益金	△ 1,822,722
(配当等相当額)	(1,198,316)
(売買損益相当額)	(△ 3,021,038)
分配準備積立金	1,743,491,608

(注) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 信託財産の運用の指図に関する権限を委託するためには、純資産総額に年率0.35%を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しています。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(88,367,191円)、費用控除後の有価証券等損益額(767,443,275円)、信託約款に規定する収益調整金(1,198,316円)および分配準備積立金(887,681,142円)より分配対象収益は1,744,689,924円(10,000口当たり2,085円)ですが、当期末に分配した金額はありません。

(注) 当期における信託報酬(消費税相当額を含む)の内訳は以下の通りです。

受託者報酬	3,926,792円
委託者報酬	111,258,930円

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

課税上の取扱いについて

●普通分配金に対して、個人の受益者については、配当所得として20.315%(所得税および復興特別所得税15.315%、ならびに地方税5%)の税率で課税されます。なお、外国税額控除の適用となった場合、分配時の税金が前記と異なる場合があります。法人の受益者の場合、前記とは異なります。元本払戻金(特別分配金)は課税されません。

※上記は2025年11月末現在適用されているものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。詳しくは税務専門家(税務署等)にお問い合わせください。

＜約款変更のお知らせ＞

・2025年4月1日付で、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款に所要の変更を行っております。また、2025年8月5日付で、監査報酬金額の計算について上限の範囲内で調整可能とするため、信託約款に所要の変更を行っております。

JPMグローバル高利回りCBファンド (為替ヘッジあり、限定追加型)

2023-11

第 2 期 運用報告書(全体版)

(決算日:2025年11月6日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「JPMグローバル高利回りCBファンド(為替ヘッジあり、限定追加型)2023-11」は、去る11月6日に第2期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じ、先進国の転換社債(CB)を主要投資対象として運用を行い、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的とします。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当該投資信託の概要と仕組み

商品分類	追加型投信／内外／その他資産(転換社債)	
信託期間	2023年11月7日から2028年11月6日(休業日の場合は翌営業日)までです。	
運用方針	<p>マザーファンドへの投資を通じ、先進国の転換社債(CB)を主要投資対象とし、安定的な収益の確保およびこの信託にかかる信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。</p> <p>信託財産が実質的に保有する外貨建資産については、当該資産の建値となる通貨と円との間の為替ヘッジを行い、為替変動リスクを抑えます。その場合、米ドル等の主要通貨を用いて間接的に為替ヘッジを行うことがあります。</p>	
主要投資 (運用)対象	当ファンド	GIMグローバル高利回りCBマザーファンド2023-11(適格機関投資家専用)の受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	先進国のCBを主要投資対象とします。
組入制限および 運用方法	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて運用を行います。 ・株式への実質投資割合は、純資産総額の30%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
	マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・CBへの投資にあたっては、投資地域の分散をはかりながら、価格水準、株価との連動性等の投資効率、発行企業自体の成長性および安定性等を勘案しつつ、特に信用リスクと比較して相対的に最終利回り※が高いと判断される銘柄を中心に投資します。 ※「最終利回り」とは、あるCBを購入し、株式に転換せずに償還期日まで保有した場合の利回りのことをいいます。 ・原則として当ファンドの信託期間内に償還日を迎える転換社債に投資し、償還日まで保有することを基本とします。ただし、上記の銘柄選択の方針に照らし、CBの償還日まで保有を継続しない場合があります。その場合、プットオプション付CBについては、オプションの権利行使日をCBの償還日とみなすことがあります。「プットオプション付CB」とは、通常の償還日より前にCBの保有者が償還を請求できる権利(プットオプション)が付与されているものをいいます。 ・CBの償還金等は、原則として当ファンドの信託期間内に償還日を迎えるCBに投資します。なお、CBの市場動向等によっては、先進国の国債に投資を行う場合があります。先進国の国債へ投資を行う場合、流動性や安定性等を勘案し投資します。 ・当ファンドの信託期間の終了に近づいた時期においては、現金の保有および短期金融商品への投資の比率が高まる場合があります。 ・外貨建資産については、円貨に対する為替ヘッジを行いません。 ・株式への投資割合は、純資産総額の30%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	年1回の決算時(11月6日(休業日の場合は翌営業日))に、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

(注) 当報告書における比率は、表示桁未満四捨五入です。

(注) 「GIMグローバル高利回りCBマザーファンド2023-11(適格機関投資家専用)」は「グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11」または「マザーファンド」ということがあります。

〈お問い合わせ先〉

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

ホームページアドレス am.jpmorgan.com/jp

TEL 03-6736-2350 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

〒100-6432 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価	額					新株予約権付社債 (転 換 社 債) 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金	期 謄	中 落		
(設定日) 2023年11月 7 日	円 10,000			円 —		% —	% —	百万円 4,368
1期(2024年11月 6 日)		10,267		0		2.7	97.1	8,725
2期(2025年11月 6 日)		10,440		0		1.7	94.7	4,377

(注) 設定日の欄には、設定時の数値を記載しております。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、各比率は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドの投資対象市場の値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマーク・参考ベンチマークは記載しておりません(以下同じ)。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価	額		新 株 予 約 権 付 社 債 (転 換 社 債) 組 入 比 率
		騰	落	
(期 首) 2024年11月 6 日	円 10,267		% —	% 97.1
11月末	10,321		0.5	92.3
12月末	10,303		0.4	98.8
2025年1月末	10,358		0.9	91.0
2月末	10,410		1.4	94.8
3月末	10,402		1.3	99.9
4月末	10,385		1.1	96.1
5月末	10,428		1.6	96.8
6月末	10,391		1.2	91.9
7月末	10,410		1.4	98.4
8月末	10,428		1.6	98.9
9月末	10,439		1.7	98.1
10月末	10,446		1.7	95.4
(期 末) 2025年11月 6 日	10,440		1.7	94.7

(注) 謄落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、各比率は実質比率を記載しております。

投資環境

◎CB市況

世界のCB市場動向を表わすFTSEグローバルCBインデックス(米ドルベース)は、上昇しました。各国・地域のCBインデックスでは、米国(米ドルベース)、アジア(除く日本、米ドルベース)、欧州(ユーロベース)、日本(円ベース)のすべての国・地域でプラスとなりました。

◆期初から3月にかけては、米新政権への期待と世界的な貿易摩擦への懸念が入り混じる環境が続き、世界のCB市場は概ね横ばいで推移しました。

◆4月上旬には、米国の政策に関する不透明感や各国の報復関税の動きがセンチメント(投資家心理)の悪化に繋がり、経済成長に対する懸念も広がる中、下落しました。

◆4月中旬以降は、トランプ政権の一部の国・地域との貿易協定の合意のほか追加関税の一部停止などを受けて、貿易摩擦が緩和するとの楽観的な見方が広がり、上昇基調で推移しました。その後も、AI(人工知能)への更なる期待の高まりや米国企業の好調な決算を背景に、期末にかけて堅調に推移しました。

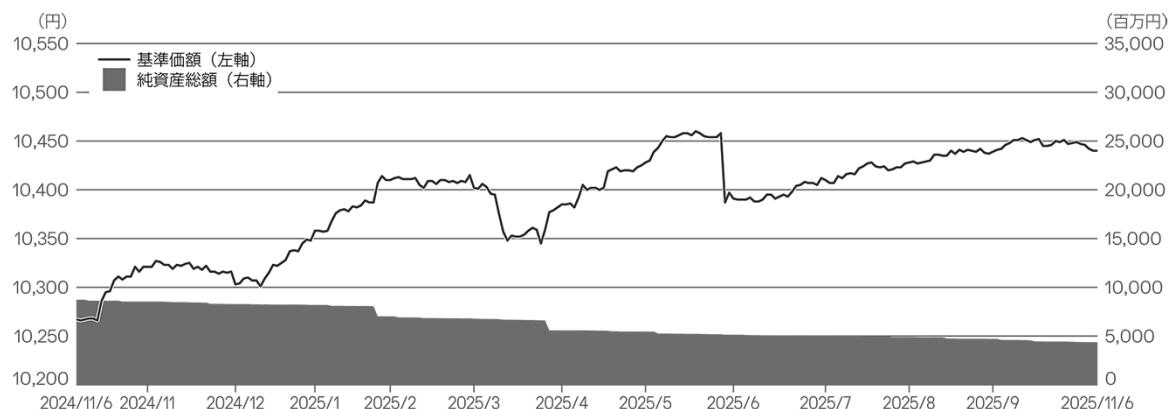
※FTSEグローバルCBインデックスは、Refinitiv(リフィニティブ)が発表しており、著作権はリフィニティブに帰属しております。

運用経過の説明

◎基準価額の推移

○当ファンド: 基準価額の騰落率は+1.7%となりました。

○組入ファンド: マザーファンドの基準価額の騰落率は+10.5%となりました。



(注) 基準価額は、信託報酬控除後です(以下同じ)。

◎基準価額の主な変動要因

マザーファンドの受益証券を高位に組み入れた結果、保有証券の売却益などが基準価額を押し上げました。

◎ポートフォリオについて

○当ファンド

マザーファンドの受益証券を高位に組み入れました。

○マザーファンド

地域別では、欧州や北米の保有比率を高めとしました。また、セクター別では、金融、コミュニケーション、消費財(生活必需品)セクターの保有比率を高めとしました。

◎分配金

基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案し、無分配としました。留保益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込)

項目	第2期
	2024年11月7日～ 2025年11月6日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	463

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 円未満は切捨てです。当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

○今後の見通し

◆2025年の株式市場は波乱含みながらも投資家にとってはポジティブな展開を見せており、地政学リスクの後退や米中貿易交渉の進展による貿易摩擦の緩和、堅調な企業利益、及びAI(人工知能)投資ブームなどが市場を押し上げています。このような環境下、企業利益に対しては楽観的な見方を維持していますが、バリュエーション(価格評価)には十分留意する必要があると考えます。2026年もグローバルの利益成長は堅調で、主要産業グループ全体で11.7%の利益成長を予想しています。特にS&P500の「マグニフィセント7」以外の企業は、3年ぶりに11.2%の利益成長が見込まれます。一方、マグニフィセント7の成長も健全で、直近の利益予想の上方修正の主因となっています。欧州はやや軟調なもの、2026年の見通しは改善しています。投資家にとっての課題は、このポジティブな見通しが既に広く織り込まれていることです。グローバル株式市場は4月の安値から約35%上昇し、AI関連銘柄への熱狂が一段と高まっています。未知の要素は多いものの、新しい技術がもたらすポテンシャルは非常に大きく、投資の勢いは加速し続けています。市場はこのような環境にあるものの、米国の税制と関税政策の将来の軌道と、それらがインフレと経済成長に与える影響が依然として不確実であるため、潜在的なボラティリティ(変動性)を抑制するためにはポートフォリオの分散が重要だと考えます。

◆CBは様々な理由から投資妙味が高い資産と考えます。第一に、金利水準、地政学的な緊張、インフレの高まりによる市場の変動性の高まりなどを背景とした資産クラスの割安感から、新規投資の好機となっています。第二に、CBは債券の特性により下落率が抑制される傾向にあることに加え、一般的な債券よりもスプレッドが大きく、デュレーションも短くなっています。また、CBにはオプション(株式に転換しうる権利)が組み入れられているため、デュレーション・リスクが大幅に低減されます。金利が上昇すると、債券部分は低下しますが、オプション部分の評価が上昇します。

◎今後の運用方針

○当ファンド

マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。

○マザーファンド

先進国のCBを主要投資対象とし、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2024年11月7日～2025年11月6日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 101	% 0.968	(a)信託報酬=〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率
(投信会社)	(63)	(0.605)	投信会社 投資判断、受託会社に対する指図等の運用業務、目論見書、運用報告書等の開示資料作成業務、基準価額の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価
(販売会社)	(34)	(0.330)	販売会社 受益者の口座管理業務、換金代金等の支払い業務、交付運用報告書の交付業務、購入後の投資環境等の情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価
(受託会社)	(3)	(0.033)	受託会社 信託財産の記帳・保管・管理業務、委託会社からの指図の執行業務、信託財産の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価
(b) その他の費用	7	0.065	(b)その他費用=〔期中のその他費用〕 〔期中の平均受益権口数〕
(保管費用)	(4)	(0.041)	保管費用 外貨建資産の保管業務の対価として受託会社の委託先である保管銀行等に支払われる費用
(監査費用)	(2)	(0.022)	監査費用 信託財産の財務諸表の監査業務の対価として監査法人に支払われる費用
(その他の)	(0)	(0.001)	その他 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	108	1.033	
期中の平均基準価額は、10,393円です。			

(注) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

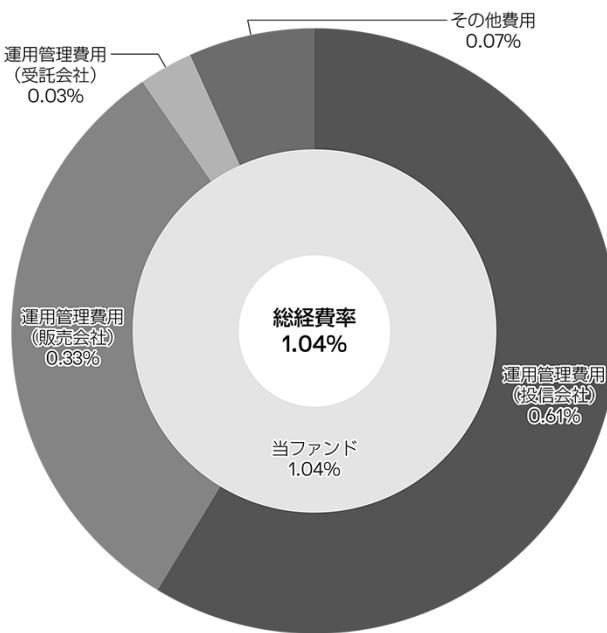
(注) 各項目の円未満は四捨五入です。

(注) 比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.04%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定期		解約	
	口数	金額	口数	金額
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券	千口 505,574	千円 562,499	千口 4,964,624	千円 5,559,805

(注) 単位未満は切捨てです。

○利害関係人との取引状況等

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年11月6日現在)

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)		当期末	
	口数	評価額	口数	評価額
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券	千口 8,086,626	千円 3,627,575	千口 4,468,085	千円

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てです。

(注) 株式、新株予約権証券及び株式の性質を有するオプション証券等は組入れていません。

○投資信託財産の構成

(2025年11月6日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券	千円 4,468,085	% 99.6
コール・ローン等、その他	16,913	0.4
投資信託財産総額	4,484,998	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。なお、「コール・ローン等、その他」については投資信託財産総額から他の資産を差し引いた額を記載しています。

(注) グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11において、当期末における外貨建純資産(14,483,900千円)の投資信託財産総額(14,630,272千円)に対する比率は99.0%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので。なお、当期末における邦貨換算レートは1米ドル=154.04円、1ユーロ=177.13円、1英ポンド=201.15円、1スイスフラン=190.31円、1オーストラリアドル=100.17円、1香港ドル=19.81円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年11月6日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円 10,850,925,565
グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11受益証券(評価額)	4,468,085,329
未収入金	6,382,840,236
(B) 負債	6,473,723,165
未払金	6,448,996,498
未払信託報酬	24,177,248
その他未払費用	549,419
(C) 純資産総額(A-B)	4,377,202,400
元本	4,192,817,832
次期繰越損益金	184,384,568
(D) 受益権総口数	4,192,817,832口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,440円

<注記事項>

期首元本額	8,498,892,492円
期中追加設定元本額	0円
期中一部解約元本額	4,306,074,660円

当期末における未払信託報酬(消費税相当額を含む)の内訳は以下の通りです。

未払受託者報酬	824,231円
未払委託者報酬	23,353,017円

○損益の状況 (2024年11月7日～2025年11月6日)

項目	当期
(A) 有価証券売買損益	円 128,482,285
売買益	1,860,143,540
売買損	△1,731,661,255
(B) 信託報酬等	△ 64,088,299
(C) 当期損益金(A+B)	64,393,986
(D) 前期繰越損益金	129,378,476
(E) 追加信託差損益金	△ 9,387,894
(配当等相当額)	(669,453)
(売買損益相当額)	(△ 10,057,347)
(F) 計(C+D+E)	184,384,568
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	184,384,568
追加信託差損益金	△ 9,387,894
(配当等相当額)	(669,453)
(売買損益相当額)	(△ 10,057,347)
分配準備積立金	193,772,462

(注) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 信託財産の運用の指図に関する権限を委託するためには、純資産総額に年率0.3575%を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しています。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(23,826,120円)、費用控除後の有価証券等損益額(40,767,866円)、信託約款に規定する収益調整金(669,453円)および分配準備積立金(129,378,476円)より分配対象収益は194,441,915円(10,000口当たり463円)ですが、当期に分配した金額はありません。

(注) 当期における信託報酬(消費税相当額を含む)の内訳は以下の通りです。

受託者報酬	2,083,924円
委託者報酬	59,044,253円

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

課税上の取扱いについて

●普通分配金に対して、個人の受益者については、配当所得として20.315%(所得税および復興特別所得税15.315%、ならびに地方税5%)の税率で課税されます。なお、外国税額控除の適用となった場合、分配時の税金が前記と異なる場合があります。法人の受益者の場合、前記とは異なります。元本払戻金(特別分配金)は課税されません。

※上記は2025年11月末現在適用されているものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。詳しくは税務専門家(税務署等)にお問い合わせください。

＜約款変更のお知らせ＞

・2025年4月1日付で、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款に所要の変更を行っております。また、2025年8月5日付で、監査報酬金額の計算について上限の範囲内で調整可能とするため、信託約款に所要の変更を行っております。

GIMグローバル高利回りCB マザーファンド2023-11 (適格機関投資家専用)

第 2 期 運用報告書

(決算日:2025年11月6日)

(計算期間:2024年11月7日～2025年11月6日)

法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第2期の運用状況をご報告申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
運用方針	先進国の転換社債(CB)を主要投資対象とし、安定的な収益の確保およびこの信託にかかる信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。 「先進国」とは、経済が大きく発展していると運用委託先が判断する国々をいいます。また、CBの償還金等による再投資においては、先進国の国債に投資を行う場合があります。先進国の国債へ投資を行う場合、流動性や安定性等を勘案し投資します。
主要投資対象	先進国のCBを主要投資対象とします。
主な運用制限	株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。外貨建資産への投資割合は、制限を設けません。

(注) 当報告書における比率は、表示桁未満四捨五入です。

(注) 「GIMグローバル高利回りCBマザーファンド2023-11(適格機関投資家専用)」は「グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11」または「マザーファンド」ということがあります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	新株予約権付社債 (転 換 社 債)			純 資 産 額
		期 脲	中 落	率	
(設定日) 2023年11月7日	円 10,000		% —	% —	百万円 13,887
1期(2024年11月6日)	11,144		11.4	94.0	23,688
2期(2025年11月6日)	12,317		10.5	92.8	14,629

(注) 設定日の欄には、設定時の数値を記載しております。

(注) 当ファンドの投資対象市場の値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマーク・参考ベンチマークは記載しておりません(以下同じ)。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	新 株 予 約 権 付 社 債 (転 換 社 債)
	騰 落 率	組 入 比 率
(期 首) 2024年11月6日	円 11,144	% —
11月末	10,921	△ 2.0
12月末	11,392	2.2
2025年1月末	11,184	0.4
2月末	10,972	△ 1.5
3月末	11,250	1.0
4月末	11,067	△ 0.7
5月末	11,261	1.0
6月末	11,513	3.3
7月末	11,770	5.6
8月末	11,763	5.6
9月末	11,983	7.5
10月末	12,358	10.9
(期 末) 2025年11月6日	12,317	10.5

(注) 謄落率は期首比です。

投資環境

◎CB市況

世界のCB市場動向を表わすFTSEグローバルCBインデックス(米ドルベース)は、上昇しました。各国・地域のCBインデックスでは、米国(米ドルベース)、アジア(除く日本、米ドルベース)、欧州(ユーロベース)、日本(円ベース)のすべての国・地域でプラスとなりました。

◆期初から3月にかけては、米新政権への期待と世界的な貿易摩擦への懸念が入り混じる環境が続き、世界のCB市場は概ね横ばいで推移しました。

◆4月上旬には、米国の政策に関する不透明感や各国の報復関税の動きがセンチメント(投資家心理)の悪化に繋がり、経済成長に対する懸念も広がる中、下落しました。

◆4月中旬以降は、トランプ政権の一部の国・地域との貿易協定の合意のほか追加関税の一部停止などを受けて、貿易摩擦が緩和するとの楽観的な見方が広がり、上昇基調で推移しました。その後も、AI(人工知能)への更なる期待の高まりや米国企業の好調な決算を背景に、期末にかけて堅調に推移しました。

*FTSEグローバルCBインデックスは、Refinitiv(リフィニティブ)が発表しており、著作権はリフィニティブに帰属しております。

◎為替市場

為替市場では、殆どの投資通貨が対円で上昇し、特にユーロが大きく上昇しました。

運用経過の説明

◎基準価額の推移

基準価額の騰落率は+10.5%となりました。



◎基準価額の変動要因

当期は保有証券の売却益や投資通貨が対円で上昇したことなどが基準価額を押し上げました。セクター別では、コミュニケーション、金融セクターなどがプラスに寄与しました。エネルギーセクターはマイナスに寄与しました。

◎ポートフォリオについて

地域別では、欧州や北米の保有比率を高めとしました。また、セクター別では、金融、コミュニケーション、消費財(生活必需品)セクターの保有比率を高めとしました。

今後の見通しと運用方針

◎今後の見通し

- ◆2025年の株式市場は波乱含みながらも投資家にとってはポジティブな展開を見せており、地政学リスクの後退や米中貿易交渉の進展による貿易摩擦の緩和、堅調な企業利益、及びAI(人工知能)投資ブームなどが市場を押し上げています。このような環境下、企業利益に対しては楽観的な見方を維持していますが、バリュエーション(価格評価)には十分留意する必要があると考えます。2026年もグローバルの利益成長は堅調で、主要産業グループ全体で11.7%の利益成長を予想しています。特にS&P500の「マグニフィセント7」以外の企業は、3年ぶりに11.2%の利益成長が見込まれます。一方、マグニフィセント7の成長も健全で、直近の利益予想の上方修正の主因となっています。欧州はやや軟調ものの、2026年の見通しは改善しています。投資家にとっての課題は、このポジティブな見通しが既に広く織り込まれていることです。グローバル株式市場は4月の安値から約35%上昇し、AI関連銘柄への熱狂が一段と高まっています。未知の要素は多いものの、新しい技術がもたらすポテンシャルは非常に大きく、投資の勢いは加速続けています。市場はこのような環境にあるものの、米国の税制と関税政策の将来の軌道と、それらがインフレと経済成長に与える影響が依然として不確実であるため、潜在的なボラティリティ(変動性)を抑制するためにはポートフォリオの分散が重要だと考えます。
- ◆CBは様々な理由から投資妙味が高い資産と考えます。第一に、金利水準、地政学的な緊張、インフレの高まりによる市場の変動性の高まりなどを背景とした資産クラスの割安感から、新規投資の好機となっています。第二に、CBは債券の特性により下落率が抑制される傾向にあることに加え、一般的な債券よりもスプレッドが大きく、デュレーションも短くなっています。また、CBにはオプション(株式に転換しうる権利)が組み入れられているため、デュレーション・リスクが大幅に低減されます。金利が上昇すると、債券部分は低下しますが、オプション部分の評価が上昇します。

◎今後の運用方針

先進国CBを主要投資対象とし、安定的な収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2024年11月7日～2025年11月6日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他の費用	円 2	% 0.017
(保 管 費 用)	(2)	(0.016)
(そ の 他)	(0)	(0.001)
合 計	2	0.017
期中の平均基準価額は、11,452円です。		

(注) 項目の概要については、前記当ファンドに投資している投資信託の運用報告書「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

(注) 各項目は簡便法により算出し、円未満は四捨五入です。

(注) 比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

新株予約権付社債(転換社債)

		買付		売付	
		額面	金額	額面	金額
外 国	アメリカ	千米ドル 10,969	千米ドル 10,403	千米ドル 16,932 (5,211)	千米ドル 15,713 (5,211)
	ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ
	ドイツ	—	—	15,500	15,450
	フランス	—	—	7,593	6,668
	オランダ	—	—	3,500	3,313 (4,300)
	オーストリア	—	—	2,800	2,840
	その他	400	392	4,700	4,642
	イギリス	千英ポンド —	千英ポンド —	千英ポンド 3,200	千英ポンド 3,146
	スイス	千スイスフラン —	千スイスフラン —	千スイスフラン 8,065	千スイスフラン 8,004
	オーストラリア	千オーストラリアドル —	千オーストラリアドル —	千オーストラリアドル 2,600	千オーストラリアドル 2,697

(注) 金額は受渡し代金です(経過利子分は含まれておりません)。なお、単位未満は切捨てです。

(注) 下段に()がある場合は権利行使、予約権行使、償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注) 外国の内訳は、国、地域名または取引市場を記載しております。

○利害関係人との取引状況等

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2024年11月7日～2025年11月6日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年11月6日現在)

下記は、グローバル高利回りCBマザーファンド2023-11全体(11,876,869千口)の内容です。

外国新株予約権付社債（転換社債）

銘柄	当期末		
	額面金額	評価額	
		外貨建金額	邦貨換算金額
(アメリカ)	千米ドル	千米ドル	千円
DEXCOM 0.25% CB	2,338	2,333	359,490
ALARM.COM HOLDINGS 0% CB	1,380	1,366	210,513
ENPHASE ENERGY 0% CB	1,133	1,112	171,382
RINGCENTRAL 0% CB	1,272	1,247	192,139
AIRBNB 0% CB	4,210	4,138	637,555
MATCH GROUP 0.875% CB	2,820	2,751	423,802
SEA 0.25% CB	5,113	4,923	758,449
AFFIRM HOLDINGS 0% CB	4,648	4,441	684,195
UNITY SOFTWARE 0% CB	586	559	86,204
CONFLUENT INC 0% CB	751	717	110,494
REXFORDINDUS4.375%REITCB	2,807	2,812	433,203
BILL COM HLDG 0% CB	1,029	969	149,378
SNAP 0% CB	3,067	2,850	439,152
REDWOOD 7.75% REIT CB	1,355	1,360	209,592
ETSY 0.125% CB	3,452	3,188	491,216
SQUARE 0.25% CB	4,925	4,526	697,219
SASOL FINANCING 4.5% CB	1,200	1,152	177,467
SNAP INC 0.125% CB	538	482	74,342
ENVISTA HOLDINGS1.75% CB	2,648	2,508	386,352
小計	額面・金額	45,272	43,444
	銘柄数 <比率>	19	—
			<45.7%>
(ヨーロッパ・ドイツ)	千ユーロ	千ユーロ	
TAGIMMOBILIENAGO.625% CB	7,400	7,272	1,288,112
ZALANDO SE 0.625% B CB	7,900	7,589	1,344,291
LEG IMMO 0.4% CB	4,700	4,366	773,510
小計	額面・金額	20,000	19,228
	銘柄数 <比率>	3	—
			<23.3%>
(ヨーロッパ・その他)	千ユーロ	千ユーロ	
GBL 0% CB	7,600	7,516	1,331,474
小計	額面・金額	7,600	7,516
	銘柄数 <比率>	1	—
			<9.1%>
ユーロ計	額面・金額	27,600	26,745
	銘柄数 <比率>	4	—
			<32.4%>

銘柄		当期末		
		額面金額	評価額	
			外貨建金額	邦貨換算金額
(イギリス)		千英ポンド	千英ポンド	千円
SHAFTESBURY CAP 2% CB		6,600	6,528	1,313,145
ASOS PLC 0.75% CB		1,000	911	183,416
WH SMITH PLC 1.625% CB		2,300	2,222	447,035
小計	額面・金額	9,900	9,662	1,943,597
	銘柄数 <比率>	3	—	<13.3%>
(香港)		千香港ドル	千香港ドル	
CITIGROUPGLOBAL0%1299 EB		10,000	9,864	195,407
小計	額面・金額	10,000	9,864	195,407
	銘柄数 <比率>	1	—	<1.3%>
合計	額面・金額	—	—	13,568,545
	銘柄数 <比率>	27	—	<92.8%>

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の<>内の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 額面金額・評価額の単位未満は切捨てです。

(注) ()内には、各証券の発行通貨の国、地域名または取引市場を記載しております。ただし、ユーロの場合は当該有価証券の発行地または取引市場の国または地域名を記載しております。うち、ユーロ圏以外の発行地または取引市場の国または地域名については、「ユーロ…その他」の欄に記載しております。

○投資信託財産の構成

(2025年11月6日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
新株予約権付社債(転換社債)	千円 13,568,545	% 92.7
コール・ローン等、その他	1,061,727	7.3
投資信託財産総額	14,630,272	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。なお、「コール・ローン等、その他」については投資信託財産総額から他の資産を差し引いた額を記載しています。

(注) 当期末における外貨建純資産(14,483,900千円)の投資信託財産総額(14,630,272千円)に対する比率は99.0%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは1米ドル=154.04円、1ユーロ=177.13円、1英ポンド=201.15円、1スイスフラン=190.31円、1オーストラリアドル=100.17円、1香港ドル=19.81円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年11月6日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円 14,637,740,045
コール・ローン等	965,004,524
公社債(評価額)	13,568,545,751
未収入金	75,852,158
未収利息	26,617,462
前払費用	1,720,150
(B) 負債	8,723,560
未払金	7,492,560
未払解約金	1,231,000
(C) 純資産総額(A-B)	14,629,016,485
元本	11,876,869,910
次期繰越損益金	2,752,146,575
(D) 受益権総口数	11,876,869,910口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,317円

<注記事項>

期首元本額	21,256,357,579円
期中追加設定元本額	505,574,070円
期中一部解約元本額	9,885,061,739円
元本の内訳	
JPMグローバル高利回りCBファンド(為替ヘッジなし、限定追加型)2023-11	8,249,293,934円
JPMグローバル高利回りCBファンド(為替ヘッジあり、限定追加型)2023-11	3,627,575,976円

○損益の状況 (2024年11月7日～2025年11月6日)

項目	当期
(A) 配当等収益	円 191,312,202
受取利息	191,312,202
(B) 有価証券売買損益	1,319,829,063
売買益	1,708,297,971
売買損	△ 388,468,908
(C) その他費用等	△ 3,084,394
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,508,056,871
(E) 前期繰越損益金	2,432,242,125
(F) 追加信託差損益金	56,925,742
(G) 解約差損益金	△ 1,245,078,163
(H) 計(D+E+F+G)	2,752,146,575
次期繰越損益金(H)	2,752,146,575

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるもの含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<約款変更のお知らせ>

- 2025年4月1日付で、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款に所要の変更を行っております。